



## 夏休みに向けて —新型コロナウイルス感染症対策徹底のお願い—

校長 前田 倍成

### 【感染の現状】

- ◇ 全国各地で、感染力が強い可能性が示唆される変異株（アルファ株，デルタ株）の感染者数，感染者割合が上昇しています。
- ◇ 本県でも、「石川県感染拡大警戒宣言」が発出され，14日には，感染状況がステージII「感染拡大注意報」からステージII「感染拡大警報」に引き上げられました。
- ◇ 令和3年度5月の児童生徒の感染経路を見ると，小学生の80%，中学生の63%，幼児の72%が「家庭内感染」と最も高い割合であり，教職員では56%が「感染経路不明」，28%が「家庭内感染」であることが分かっています。（文科省7月9日付通知）

### 【本校の夏休み期間中の取組】

今年度は，サマースクール（7/26～28，8/25～27），全校登校日（8/5），プール開放，また6年生の宿泊体験活動（8/26，27）など，私ども教職員自身が感染対策行動を徹底することはもちろん，感染拡大状況によっては中止することも含め，感染症対策，熱中症対策を十分に考慮し工夫しながら実施する予定としています。

### 【保護者のみなさまへのお願い】

以上のような状況のもと，児童の感染を防ぎ，安心・安全な教育活動を推進するためには，各ご家庭のご協力を欠かすことができません。以下の項目について，どうぞみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

- 毎日の健康チェックを習慣とし，お子様に発熱等の風邪症状がある場合には，外出を控えさせ自宅で休養するようになさっていただくこと
- 不要不急の外出（特に，「緊急事態宣言地域」や「まん延防止等重点措置実施区域」との往来）を控える，友人同士の家庭間の行き来を控える，家族ぐるみの交流による接触を控えるなど，感染が広がらないよう慎重な判断，行動をしていただくこと
- 各ご家庭でも，「新しい生活様式」を継続実践していただくとともに，「感染リスクが高まる『5つの場面』」等（裏面掲載）を参考に，日常生活の中で感染リスクを減らす行動を心がけていただくこと
- 万一，感染あるいは濃厚接触者となった場合は，速やかに学校へご連絡ください。

# 「新しい生活様式」の実践例

## (1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
  - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
  - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する**。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意する**。
  - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
  - 人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
  - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けん**で丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

### 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

## (2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** □咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） □身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



## (3) 日常生活の各場面別の生活様式

### 買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて早く済ませ
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

### 公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

### 娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

### 食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

### イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

## (4)働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 □時差通勤でゆったりと □オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン □対面での打合せは換気とマスク

# 感染リスクが高まる「5つの場面」

### 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



### 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



### 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、巨力ラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中中でも注意が必要。



### 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



### 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

